

ハイフミンデルマと固形 1 号を用いた桃の樹勢回復

日本肥糧株式会社

白モンパ病に罹病した果樹は根が極端に少なくなっており、通常の施肥では必要な養分を確保することができません。また、土壌中にはモンパ病菌が蔓延し、生き残った根から新たに吸肥根を出してもすぐに感染してしまいます。

ハイフミンデルマは腐植質土壌改良材であり、腐植の効果で発根が促進されます。添加微生物であるトリコデルマ・ハルジアナム RH221 は土壌微生物環境を改善し、根の健全な生育を促進しますので、地上部の生育も促進されます。

モンパ病の防除方法の一つである化学的防除(農薬)では薬剤が使用されますが、薬液が届かない部位では菌が生存することや、株元を掘り上げてプール状に薬液をためる事は多大な労力を必要とするという問題があります。

ハイフミンデルマは農薬ではないので、病原菌を徹底的に殺す効果は期待できませんが、タコツボ処理や株下処理を行なった位置で発根を促進し、新たに発生した根のまわりの土壌微生物環境を改善することで根の健全な生育を促進します。

生育不良樹の回復は、確実に葉面積を拡大させ、樹に体力をつけなければなりません。したがって、ハイフミンデルマで発根促進して根の健全生育を図り、伸びてきた根に肥料成分を吸収させて初めて回復が実現されます。肥料成分が天然腐植で包まれていて根にやさしい固形肥料 1 号を同時に施用することで、樹勢回復に必要な肥料分を効率的に吸収させることができます。

事例 1

- 試験場所 : 山梨県
試験開始年 : 1999 年 11 月
状況 : 樹齢 5 年の桃で、新梢はほとんど伸びず、根には白モンパ病菌が付着してボロボロであった。



試験開始時の桃

- 試験方法 : 株元の半径 1m 程度を掘り上げ、ハイフミンデルマと固形 1 号(5-5-5)を施用しながら埋め戻しました。

- 試験結果 : 樹勢の回復が確認できました。

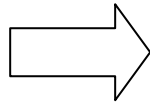
施用 6 ヶ月後(2000 年 4 月)

摘蕾後の状態



施用 11 ヶ月後(2000 年 9 月)

樹勢は相当に回復した。



更にその後・・・

3年間同様の処理を続けた結果、2002年には100個以上の収穫ができるまでに樹勢が回復した。

事例 2

試験場所 : 山梨県

試験開始年 : 試験樹新植 1999 年 11 月 慣行区新植 1998 年 11 月

状況 : 例年新植しても白モンパ病に罹病して成長しないイヤ地であった。

試験方法 : 新植時にハイフミンデルマを植え穴全体に混合し、固形 1 号を上穴の下に入れて間土して植え込んだ。

試験結果 : 慣行の方法で植えていた桃は罹病して枯死したが、試験の方法で植えた桃は健全に生育した。



処理樹 : 植え付け 10 ヶ月後



無処理樹 : 植え付け 22 ヶ月後

事例 3

試験場所 : 山梨県

試験開始年 : 1999 年

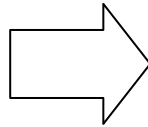
状況 : 1998 年に植え付けしたが、白モンパ病に罹病していた状態

試験方法 : ハイフミンデルマと固形 1 号をタコツボ施用した。

試験結果 : 処理樹は樹勢が回復したが、無処理樹は枯死した。



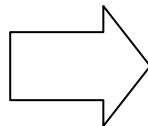
処理樹(資材施用時)



処理樹(処理 1 年後)



無処理樹



枯死